

公正「で」質の高い 教育を目指して

国立教育政策研究所・初等中等教育研究部・白水（しろうず） 始

コメントの骨子

- 日米英のリサーチから見えること
 - オンライン家庭学習に家庭や学校・自治体の経済状況が影響を及ぼす
- 研究知見（research finding）をどう使うか？
 - 学校にできることは何か？
 - どこに希望を見出すか？
- 「現状」の研究知見をどう乗り越えるか？
 - デモンストレーションスクールズの取組
 - 来るべき未来のビジョン

日米英の最新の調査から：経済状況と標準的な学力／ICT活用状況に着目すると

• コロナ禍への対応も含め、見えてきたのは

1. オンライン教育はネットワークへのアクセスと教員のICT利活用リテラシーがあって効果を発する
2. アクセスには所得格差が存在し、コロナが教育格差も拡大する
3. 基礎学力や生徒指導に問題がない自治体・学校はICTも導入しやすい

→どこに希望を見出すか（社会経済政策に頼らない範囲で）？

日米英の最新の調査から：経済状況と標準的な学力／ICT活用状況に着目すると

- コロナ禍への対応も含め、見えてきたのは
 1. オンライン教育はネットワークへのアクセスと教員のICT利活用リテラシーがあって効果を発する
 2. アクセスには所得格差が存在し，コロナが教育格差も拡大する
 3. 基礎学力や生徒指導に問題がない自治体・学校はICTも導入しやすい
 4. リーダーが形式平等にとらわれず，できるところからやろうとすることで，格差は是正され得る
 5. リーダーがICT導入に積極的で，社会実装の際に核になる人材が教育委員会に存在すると，ICTも導入しやすい

内部から希望を見出す

- コロナ禍への対応も含め、見えてきたのは
 1. オンライン教育はネットワークへのアクセスと教員のICT利活用リテラシーがあって効果を発する
 2. アクセスには所得格差が存在し、コロナが教育格差も拡大する
 3. 基礎学力や生徒指導に問題がない自治体・学校はICTも導入しやすい
 4. リーダーが形式平等にとらわれず、できるところからやろうとすることで、格差は是正され得る
 5. リーダーがICT導入に積極的で、社会実装の際に核になる人材が教育委員会に存在すると、ICTも導入しやすい
- これは偶発か、意図的か？ この仕組みをデザインできるか？
- 相関を超え、因果をデザインできるか？ 何が基盤か？

内部から希望を見出す：もし意図的にデザインできるものならば（≡経済状況が苦しい自治体でもそこから漸進的に変容していけるのであれば）

「ICTを活用した公正『で』質の高い教育の実現」と言ったとき

○それがICT主導で実現するのか？

○ICTが貢献するための基盤づくり（マネジメント人材・授業の基盤）が必要ではないのか？

○そもそも「公正で質の高い教育」が実現しているというのはどういう状態なのか？

○それを現在の学習指導要領の目標とも関連づけてそれぞれの現場がどう落とし込めるか？

といった問いへの答えが見えてくることが希望をもたらす

外部から視野を広げて希望を見出す

いまは「徒弟制時代」「公教育制度時代」から子供が学びの主権を取り戻す「生涯学習時代」への転換期（Collins & Halverson, 2009/2018）にあるという見方

→学校だけが責任を負わなくてよい，社会総がかりで学びを考える時代

	徒弟制時代	公教育制度時代	生涯学習時代
責任	保護者	政府	学習者自身(小さな子どもであれば親)
ゴール	保護者と同じスキルの習得	全員を同程度にレベルの高い成功者にする	興味を持ったことやキャリア進歩に必要なことの追求
内容	仕事場で働くために必要となる知識	大人が必要とするすべての知識	学びのゴールの決め方そのもの: 学び方についての学習や役立つリソースを探す方法, より一般的なスキル
方法	モデリング, 観察, コーチング, 実践等	集団教育の手法	相互作用を活用する方向: コンピュータ上の家庭教師やウェブ上のゲームとネットワークを使った人同士の相互作用
評価	何ができるようになったかの総括的評価と, 次に何を教えたらいいかを判断するための形成的評価	学習者が教わったスキルや知識を獲得できたかどうかを測定するための標準テスト	徒弟制時代のような一人ひとりの成長過程を見守る形の評価; コンピュータを使った学習環境で実現されやすい
場所	家や牧場, 農場あるいは隣接する店舗等	学校	インターネット上の学習環境や学習コミュニティなど多様化
文化	周りで働く大人の文化	若者の仲間文化	年齢の異なる人たちが築く新たな学習文化
関係性	個人的結び付き	権威者に教え授かる	コンピュータを介した多様な相互作用

外部から視野を広げて希望を見出す

しかし，学校の教室から，オンライン上へと拡張した学習空間を享受する層とできない層の格差がすでに見えつつある

⇔今のままでは変容できない：「間」にあるべき教育と学習のモデルを考えることがコロナが課した真の課題ではないか？

間に来るべきモデルとは？

	徒弟制時代	公教育制度時代	生涯学習時代
責任	保護者	政府	学習者自身(小さな子どもであれば親)
ゴール	保護者と同じスキルの習得	全員を同程度にレベルの高い成功者にする	興味を持ったことやキャリア進歩に必要なことの追求
内容	仕事場で働くための知識	基礎知識	学びのゴールの決め方、学ぶ方法、より深く学ぶ方法、より良い学びの方法を探る方法、より良い学びの方法を探る方法
方法	モデリング、観察		相互作用を活用とネットワークを使う
評価	何が出来るようになったか、次に何を教えるかの形成的評価	知識を獲得できたか、標準テスト	徒弟制時代のよさを活かした学習環境
場所	家や牧場、農場		インターネット上の
文化	周りで働く大人の文化	右者の仲間文化	年齢の異なる人たちが楽しむ新たな学習文化
関係性	個人的結び付き	権威者に教え授かる	コンピュータを介した多様な相互作用

コミュニティや集団で学ぶよさを

個々人で自発的に学ぶよさと、どう結び付けていくか？

第2, 3部に向けて：研究知見を超えて

- 「質の高い教育」とはそもそも何か？ それを考
えることで「公正で質の高い教育」に迫りやす
くなるか？
- 学力とつながり，学力と意欲，対面と遠隔，協働
と個人といった分断しやすい要素をどう融合で
きるか？低学年や困難校でも実現可能か？
- 「公正で質の高い教育」を自ら定義した時に，ど
んなICT活用が見えてくるか？ 教員はまず何を
学ぶべきなのか？
- 「公正で質の高い教育」について学び合い，挑戦
し続けるコミュニティをどう創るか？